

2024 年 7 月 19 日

日本言語テスト学会
会長 渡部良典 様

著作賞選考委員会 委員長 片桐一彦

2024 年度 日本言語テスト学会著作賞 選考結果報告

末尾(裏面)のような「経緯」と著作賞選考委員会による厳正なる審査並びに審議の結果、下記の書籍を 2024 年度「著作賞」の候補として推薦致します。

記

受賞対象著作:

書籍名: *Understanding L2 Proficiency—Theoretical and meta-analytic investigations*
著者名: Eun Hee Jeon and Yo In'nami (編)
出版社: John Benjamins Publishing Company
出版日: 2022 年 8 月 4 日

受賞対象者(4 名):

共同編者兼執筆者 印南 洋 氏(中央大学)	[受賞対象者代表]
執 筆 者 新井雄也氏(早稲田大学)	
小泉利恵氏(筑波大学)	
山下淳子氏(名古屋大学)	[五十音順]

推薦理由:

上記の図書は、L2 proficiency に関して先行研究を広く網羅しかつ深く読み込んだ上で、4 技能それぞれの能力を左右する内部下位要素ならびに関連する外部要素を整理しつつ広く深く詳述し理解を深め、その上で「各技能」と「各要素」との相関係数に関してそれぞれメタ分析をおこないより精緻化された知見を提供している。4 技能別にそれぞれ章立てがおこなわれている。先行研究の探索の方法は章(執筆者群)によって多少違いがあり、たとえば第 3 章では 5 つの主要データベース(ERIC, LLBA, ProQuest, PsycINFO, PsycARTICLES)と 29 の応用言語学および関連学問のジャーナルを探索したと記述されているが、どの章も先行研究を十分に捕捉しておりその充実ぶりは目を見張るものがある。L2 proficiency に関する研究の結果を整理し深く考察し精緻化することは、L2 assessment の「基礎研究」にあたると考える。

本書は、国際的協同執筆による著作である。本書の執筆者 12 名のうち、日本言語テスト学会員である 4 名(新井雄也氏、印南洋氏、小泉利恵氏、山下淳子氏[五十音順])が、執筆者として名を連ねている(次頁参照)。英語で書かれているので、国内のみならず世界の多くの人々が読むことが可能である。

以上の理由により、本書は、「外国語教育における測定と評価(テスト理論・テストの開発・妥当性の検証など広く言語テストに関わるもの)」に関連する研究や実践を広く一般に普及することを目的とする」著作賞規程第一条の目的に合致するものと判断する。

なお、世界的諸物価高並びに円安により洋書購入費用が高騰している現在にあつて、当該著書の PDF 版は無料でダウンロードが可能である(<https://www.jbe-platform.com/content/books/9789027257697> 2024 年 7 月 6 日参照)。

経緯:

2024 年 3 月 31 日 推薦者の条件(会員歴 3 年以上)を満たす会員より締切日までに 1 件の推薦があった。

2024 年 4 月 1 日 当該図書の PDF 版による予備的な査読を開始した。

2024 年 4 月 3 日 学会事務局長に当該図書の購入を申請した。

2024 年 6 月 4 日 当該図書が各委員に到着し、原本による本査読を開始した。

2024 年 7 月 6 日 著作賞選考委員会選考会議(遠隔)を開催し、当該図書を理事会に推薦することを
全会一致で決定した。

受賞対象者の執筆担当章:

Chapter 2

L2 reading comprehension

Theory and research

Junko Yamashita

Chapter 3

L2 reading comprehension and its correlates

An updated meta-analysis

Eun Hee Jeon and **Junko Yamashita**

Chapter 6

L2 writing and its external correlates

A meta-analysis

Masumi Kojima, **Yo In'nami** and Taku Kaneta

Chapter 8

L2 listening and its correlates

A meta-analysis

Yo In'nami, **Rie Koizumi**, Eun Hee Jeon and **Yuya Arai**

Chapter 10

L2 speaking and its internal correlates

A meta-analysis

Rie Koizumi, **Yo In'nami** and Eun Hee Jeon

Chapter 11

L2 speaking and its external correlates

A meta-analysis

Eun Hee Jeon, **Yo In'nami** and **Rie Koizumi**

Chapter 13

Discussion, limitations, and future research

Eun Hee Jeon, **Yo In'nami** and **Rie Koizumi**

以上